

分類：臨床医学Ⅲ
授業科目名：薬物治療の基本原則（Knowledge for basic medical care）
対象学年：4年次必修
時間割コード：71633025
開設学期等：第8週～第10週（毎週火曜日1-10時限）
単位数：1

1. 主任教員

三浦 昌朋（教授、薬物動態学講座、6439）

2. 担当教員

三浦 昌朋（教授、薬物動態学講座、6439）
柴田 浩行（教授、臨床腫瘍学講座、6262）
中永士師明（教授、救急・集中治療医学講座、6183）
三島 和夫（教授、精神科学講座、6119）
菅原 正伯（講師、消化器内科学・脳神経内科学講座、6104）
森井 宰（講師、代謝・内分泌内科学講座、6769）
赤嶺由美子（講師、薬剤部、6462）
藤山 信弘（講師、臨床研究支援センター、6259）
能登 舞（助教、皮膚科学・形成外科学講座、6153）
福田 翔（助教、消化器内科学・脳神経内科学講座、6104）
杉本 侑孝（助教、緩和ケアセンター、6223）
白崎 聖子（非常勤講師、薬剤部、6309）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

【ねらい】

診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、有害事象、投与時の注意事項）を学ぶ。
また、関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法（薬機法）、EBMについて学ぶ。

【概要】

- 1) 薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 2) 主な薬物アレルギーの症候、診察、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 3) 薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断、対処法を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 4) 各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 5) 抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 6) 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 7) 麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 8) 主な薬物の有害事象を概説できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 9) 年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 10) 薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 11) 処方箋の書き方、服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。(2-1～2-8, 3-7, 4-6～4-8)
- 12) 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)
- 13) 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)

14) ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用（アンチ・ドーピング等）を説明できる。(3-1～3-7, 4-1～4-8, 5-1～5-5, 6-1～6-2)

15) 関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、医療法（薬機法）、EBM について説明できる。(1-1～1-2, 3-3, 3-5, 3-7, 4-4)

4. 教科書・参考書

基本がわかる漢方医学講義、羊土社、日本漢方医学教育協議会編集

5. 成績評価の方法

統一試験、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

授業時間外の学習内容：到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	5月30日 (火)	1-2 時限	講義	テーマ：薬作用・薬物動態 薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 年齢や臓器障害に応じた薬物動態の特徴を考慮して薬剤投与の注意点を説明できる。	三浦 昌朋	第二病棟 2階・多目的室
2	5月30日 (火)	3-4 時限	講義	テーマ：服薬アドヒアランスと DDS 製剤 処方箋の書き方、服薬の基本・アドヒアランスを説明できる。	三浦 昌朋	第二病棟 2階・多目的室
3	5月30日 (火)	5-6 時限	講義	テーマ：副作用の種類・機序・対策 主な薬物の有害事象を概説できる。 薬物によるアナフィラキシーショックの症候、診断、対処法を説明できる。 ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用を説明できる。 抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。	赤嶺由美子	第二病棟 2階・多目的室
4	5月30日 (火)	7-8 時限	講義	テーマ：消化器疾患と漢方 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる。	白崎 聖子	第二病棟 2階・多目的室
5	5月30日 (火)	9-10 時限	講義	テーマ：糖尿病治療薬 各臓器系統（内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。	森井 宰	第二病棟 2階・多目的室
6	6月6日 (火)	1-2 時限	講義	テーマ：漢方総論・急性期の漢方 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる。	中永土師明	第二病棟 2階・多目的室
7	6月6日 (火)	3-4 時限	講義	テーマ：向精神薬・精神疾患治療薬 各臓器系統（中枢神経等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。	三島 和夫	第二病棟 2階・多目的室
8	6月6日 (火)	5-6 時限	講義	テーマ：免疫抑制薬 各臓器系統（腎泌尿器等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。	藤山 信弘	第二病棟 2階・多目的室
9	6月6日 (火)	7-8 時限	講義	テーマ：薬剤アレルギーと予防 主な薬物アレルギーの症候、診察、診断を列挙し、予防策と対処法を説明できる。	能登 舞	第二病棟 2階・多目的室
10	6月6日 (火)	9-10 時限	講義	テーマ：疼痛薬物治療 麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。	杉本 侑孝	第二病棟 2階・多目的室
11	6月13日 (火)	1-2 時限	講義	テーマ：薬物相互作用 薬物動態的相互作用について例を挙げて説明できる。	三浦 昌朋	第二病棟 2階・多目的室
12	6月13日 (火)	3-4 時限	講義	テーマ：ファーマコゲノミクス 各臓器系統に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 ポリファーマシー、使用禁忌、特定条件下での薬物使用を説明できる。	三浦 昌朋	第二病棟 2階・多目的室

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
13	6月13日 (火)	5-6 時限	講義	テーマ：神経内科疾患の治療薬 各臓器系統（中枢・末梢神経等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。	菅原 正伯	第二病棟 2階・多目的室
14	6月13日 (火)	7-8 時限	講義	テーマ：抗腫瘍薬 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。	柴田 浩行	第二病棟 2階・多目的室
15	6月13日 (火)	9-10 時限	講義	テーマ：消化器作用薬 各臓器系統（消化器等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。	福田 翔	第二病棟 2階・多目的室